

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3671500845
法人名	社会福祉法人 サンシティあい
事業所名	グループホーム 矢上
所在地	徳島県板野郡藍住町矢上字原129-3 (電話) 088-692-1833
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月 11日

【情報提供票より】(平成20年1月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	9 人 常勤 4人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月26日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2		2名	
要介護3	2名	要介護4		1名	
要介護5	0名	要支援2		1名	
年齢	平均 84.7歳	最低	71歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・伊藤ケンゾー診療所
---------	------------

徳島県 グループホーム矢上 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関の前に菜園があり、利用者、職員と一緒に野菜や花を育てている。ホームには温泉がひかれ、利用者の楽しみとなっている。リビングには花や絵画が飾られ、居心地良い空間が作られている。利用者同士の会話や笑顔が見られ、職員の細やかな支援のもと、安心した生活を送っている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「介護計画への利用者・家族の意見の反映」は、作成または見直し後、利用者、家族に説明し、同意を得ている。「緊急時の手当て」は研修し訓練を行っている。「感染症対策」についても同様にできている。「継続的な研修の受講」は研修内容を職員全員が共有できるよう、報告や話し合いが行われている。「事故の報告書と活用」はヒヤリハット報告書を作成し、報告や改善に向けての話し合いが行われている。「注意の必要な物品の保管・管理」は適切に保管されているが、明文化できていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は評価の意義を理解し、全職員で話し合い自己評価を行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族、法人理事長、管理者、職員で構成され、2ヶ月に1回開催されている。ホームの現状報告や家族や利用者からの要望等が話し合われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見を出したり、相談しやすいような雰囲気作りに配慮し、出された意見や要望は運営に反映させるよう話し合い、取り組まれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームでの敬老会やクリスマス会には地域の人たちや、保育園児の来訪があり、交流が行われている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開設当初のもので、地域密着型サービスとしての理念は作成されていない。	○	地域密着型サービスとしての役割を目指した理念の作成が期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスとしての理念が作成されておらず、共有はできていない。	○	理念の見直しを行い、具体的な支援について職員全員で話し合い共有することが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでの敬老会、クリスマス会、餅つき大会等には地域の方達が来られ、交流されている。しかし、町内会や地域活動等へのグループホームの関わりが少ない。	○	グループホームと地域の人々が共に支えあう関係作りが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回改善項目「介護計画への利用者・家族の意見の反映」「緊急時の手当て」「感染症対策」「継続的な研修の受講」「事故の報告書と活用」は改善されている。自己評価は全職員で話し合い作成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催している。メンバーは民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族、法人理事長、管理者、職員で構成され、ホームの現状報告や家族からの要望、利用者からの嗜好品(タバコ)の希望等が討議されている。会議録はファイルされ、全職員に回覧している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町介護保険担当窓口には、ホームの実情報告を行い連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日常生活報告書に健康状態やホームでの暮らしぶりを記入し、毎月送付している。また、預かり金も収支を報告し、家族の確認を受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には手紙や面会時に問いかけ、何でも言いやすい雰囲気作りに配慮している。出された意見はミーティングで話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職が止むを得ない時には引継ぎの期間を十分に取るようにし、利用者への影響に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は計画的に受講し、法人内研修にはパート職員も参加している。研修報告書は職員全員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連携をはかり、相互訪問をして相談やアドバイスを受ける等、サービスの質の向上に向けた取り組みができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に見学にきてもらうことから始め、何度も遊びに来てもらい馴染みの関係をつくり、利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いを知ること努めている。古くからのしきたり、縫い物、調理等教えてもらう場面も多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしのなかで利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には家族から情報を得ている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや意向を反映し、全職員で話し合っ介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごと及び状態変化や要望に応じて随時見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況や要望に応じて通院や、家の様子を見に行くなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医としている。また、適切な医療がうけられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について、本人、家族の意向を踏まえ、かかりつけ医や協力医療機関等と話し合っている。また、状態に変化がある度に家族と相談し、方針を決めて共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの折に、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応等、気づいたことを話し合っている。また、個人情報の取り扱いについても学習している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に利用者の生活を合わせることなく、その日の気分や体調に配慮し、柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、後片付けは利用者と共に、同じテーブルで食事をとり、ゆっくりと会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間に入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム前の菜園で野菜や花を作り、季節には梅干を漬けるなど利用者一人ひとりの出番がある生活ができている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、散歩などその日の天気や希望に応じて出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力により通報、避難誘導、消火訓練等を行っている。しかし、地域住民の協力体制はまだできていない。	○	運営推進会議で話し合い、地域住民の方達にも訓練に参加してもらおう等の連携体制作りに取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設ケアハウスの管理栄養士により立てられ、食事、水分摂取量は毎日チェック表に記録している。また、利用者個々の好き嫌いについての表を作成し、嫌いな献立のときには違う食材にするなど工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに金魚の水槽がある。大きく育てて近くのバラ園の池に放つのを楽しみにしている。共用空間にはテーブルとソファを置き、仲良くくつろいだり、一人で過ごせる自分の居場所が作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや箆笥など馴染みの家具を持ってきている。部屋のドアに職員の手による利用者の似顔絵を飾り、場所まちがいなどの混乱を防ぐ工夫をしている。		